

## 教会の春・夏・秋・冬・・・イースターってなに？

イースターは、イエス・キリストが死から復活されたことを記念する日です。キリストは、私たちが罪から救うために十字架にかかって死なれ、墓に葬られましたが、三日目に墓の中からよみがえられました。

キリストが十字架で息を引き取られたのは金曜日の午後3時ごろ。ユダヤの一日は日没から始まりましたから、すぐ安息日である土曜日に入りました。それが二日目。そして日曜日、三日目の朝にキリストは復活されました。

今年のイースターは4月4日でした。イースターが年によって異なるのは、325年の第一回ニカイア公会議で、春分の日の後にめぐってくる満月の次の日曜日を、イースターにすると決められたからです。

私たちは誰もがやがて死を迎えます。そして誰もが死を恐れます。しかし、キリストが死の闇を打ち破って、墓からよみがえられたことによって、私たちは死の恐れから解放され、天国の希望が与えられました。ハレルヤ!



### 教会からのオススメの一冊

「宣教師フロイスが記した 明智光秀と細川ガラシャ」

守部喜雅・著  
(いのちのことば社フォレストブックス発行)

昨年放送されたNHK大河ドラマは、「麒麟がくる」でした。これまで悪役として描かれることの多かった、明智光秀にスポットが当てられ、従来の歴史観をひっくり返すような、大胆なストーリーが話題となりました。

今回ご紹介する「明智光秀と細川ガラシャ」は、明智光秀や細川ガラシャ、そして、織田信長の姿を、ルイス・フロイスという宣教師の視点を軸に解説しています。彼はイエズス会の宣教師で、信長や秀吉の時代、日本でキリスト教の布教活動を行いました。そして、細部に至るまで正確な記録を残しました。彼の記録はバチカンに宛てた公式の報告書として提出されました。これが後に「日本史」としてまとめられ、当時の日本を知るための貴重な資料となりました。

信長に関しては、一般的に「信長公記」が一級資料として用いられますが、フロイスの「日本史」は異なる視点から描かれ、「信長公記」には見ら



れない描写やエピソードも盛り込まれています。日本史最大のミステリーと言われる本能寺の変に関しても、二つの資料の記述は少し違っており、興味深いものがあります。

細川ガラシャについても、「日本史」には非常に細かい記述が残されています。彼女がキリスト教に魂の安らぎを求めた心境、周囲の反対を押し切って洗礼を受けた経緯、そして、その後の彼女の様子が以前と全く変わり、平安に満ちていた描写など、その情景が目には浮かぶほど細やかに解説されています。

このように、400年以上もの時を越えて、一人の宣教師の筆によって、私たちは多くのことを知ることができるのです。人々に魂の平安を与えるために命をかけた宣教師の存在が、日本の歴史を紐解き、キリスト教が日本に与えた影響を知るための手がかりとなっていることに、深い感動を覚えます。

## 宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル (聖書のお話)

0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。  
ホームページからも利用できます。

礼拝 毎週日曜日

第一部 9:30~10:30

第二部 11:00~12:00



教会HP



礼拝動画



## 信じない者ではなく.....

今からおよそ2000年前、イエス・キリストは十字架にかかって死なれ、三日目に墓の中から復活されました。キリストが復活されたとき、弟子たちはなかなか信じませんでした。しかし、戸を閉め切って震えていた彼らの所に、復活されたキリストが立たれると、彼らは大きな喜びに満たされました。キリストの復活を信じたからです。

ところが、ちょうどそこには、弟子の一人、トマスが居合わせませんでした。彼は、喜んでいるほかの弟子たちに向かって、自分の指をキリストの手の釘あとに差し入れ、自分の手をキリストの脇腹の傷あとに差し入れてみるまでは絶対に信じない、と言いました。

そんな彼にも、キリストは現れなさいました。復活のキリストは、トマスに、指を釘あとに入れてみなさい、手を脇腹に入れてみなさい、と言われました。すると彼は、そうするま

でもなく、その場にひれ伏し、キリストの復活を信じた。そのとき、キリストは静かに「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」(ヨハネの福音書20章27節)と言われました。

信じない者になるのは簡単です。多くの人が信じない者になっています。心から信じる者は、ほんの一握りしかいません。

私たちは、どこまでも純粋に、単純に、まっすぐに信じる者になりたいですね。まず、キリストが私たちの罪のために十字架で死んでくださったことを信じましょう。そうすれば、私たちのすべての罪は赦されて、喜びと平安を持つことができます。さらに、キリストが死の中から復活されたことを信じましょう。そうすれば、私たちに死に勝つ力が与えられます。すべては単純に信じることから始まります。信じない者ではなく、信じる者になりましょう。



「イカリソウ 一春の山野草」

4月といえど 信州の春は寒い  
山の頂は 白い雪でおおわれている  
気温は 朝夕 氷点下の日もある

それでも花達は 競うように 咲き始めるのだ  
待ちこがれた春が やって来たのだから  
どの花も どの草も 美しいと思う  
自然の厳しさを 通りぬけて そこにいるのだから

イカリソウも 雪解け直後から咲いてくる  
樹木の足元や 半日陰の場所を好む花  
花の姿が 船の錨に似ているので イカリソウと呼ばれている  
花の横に 長くのびているのは 蜜をためる <sup>きよ</sup>距という部分だ  
頭の上に 茎と葉がすでに延びていて その下から  
花茎が出てきて 花が咲く 別名 <sup>さんしきようそう</sup>三枝九葉草とも言う  
少しうつむきかげんで 咲きつづける  
イカリソウの可憐な姿は 立ち留まって  
眺める者の心を 和ませている

主に贖われた人々は 帰って来て  
喜びの歌をうたいながら シオンに入る  
頭にとこしえの喜びをいただき  
喜びと楽しみを得  
嘆きと悲しみは 消え去る

イザヤ51章 (聖書)